

4) 平成14年度アユ沖すくい網漁業の漁獲特性

臼杵崇広

【目的】アユ沖すくい網漁業による琵琶湖産アユの漁獲実態を把握するために、当該漁業従事者を対象に漁獲状況調査を実施した。

【方法】アユ沖すくい網漁業に従事する7漁協46人の漁業者に、当該漁業による日ごとのアユ漁獲量、操業水域について平成14年6月1日から同年7月31日まで日誌記録を依頼した。また、3漁協3人の従事者からおよそ10日ごとに漁獲アユのサンプルを収集し、漁獲体型を調査した。

【結果】

①漁獲日誌調査

調査期間中の総のべ従事者数は1,674人であった。時期ごとののべ従事者数は6月上旬(1～10日。以下、中旬は11～20日、下旬は21日から月末までの期間とする。)には188人であったが、6月中旬には290人と大幅に増加し、7月中旬までほぼ横ばいで推移した後、7月下旬には228人に減少した(図1)。ピークは7月上旬の336人であり、1日あたりの従事者数が最も多かったのは7月12日の43人であった。

本調査における総漁獲量は272.7トンであった。時期ごとの漁獲量は6月上旬には7.7トンであったが、6月中旬に一度増加した後、6月下旬に減少した(図2)。その後7月上旬に68.4トンと再び大幅に増加し、7月下旬には20.9トンに減少した。漁獲量全体に対する旬漁獲量の比率は7月上旬が30.7%、7月中旬が29.0%であり、7月上、中旬で全体の約60%を占めた。1日あたりの漁獲量が最も多かったのは7月9日の14.8トンであった。

時期ごとのCPUE(1日1従事者あたりの漁獲量)は時期ごとの漁獲量と同様の増減傾向を示し(図3)、CPUEが最も高かったのは7月9日の360.8kg/人/日であった。

主要な操業水域は四津川沖、長命寺沖、塩津湾であった(図4)。四津川沖、長命寺沖は期間を通じて他の水域より漁獲量が多く、特に多かった期間は四津川沖では7月上旬、中旬であり、長命寺沖では6月中旬から7月中旬までであった。これに対して、塩津湾では漁期が進むにつれて漁獲量が増加し、7月下旬にピークを迎えた。

②漁獲体型調査 (→3-1)平成14年度アユ資源調査結果概要 図1参照)

漁獲アユの体長は6月上旬、中旬には平年値を下回ったが、それ以降はほぼ平年並となった(図5)。体重は6月上旬、中旬には平年値を大きく下回った。その後徐々に平年値に近づいたが、7月下旬でも平年値比86.9%にとどまった。

③漁獲尾数の算出

①、②のデータから、本調査における総漁獲尾数は7,669万尾と推定された。時期ごとの漁獲尾数は、7月上旬が2,216万尾と最も多く、次いで6月中旬が1,803万尾、7月中旬が1,801万尾であった(図5)。6月中旬の漁獲量(全体比16.0%)は7月中旬の漁獲量(同29.0%)のおよそ半分であったが、漁獲尾数ではほぼ同量(両者とも全体比23.5%)となった。つまり、6月中旬は漁獲アユが小型であったため、漁獲尾数の割には漁獲重量は少なかったということである。

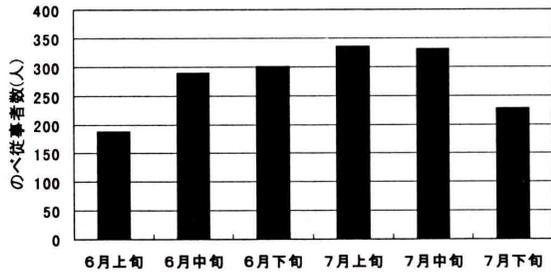


図1 時期ごとのアユ沖すくい網漁業従事者数

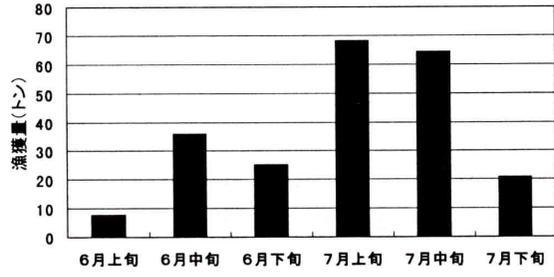


図2 アユ沖すくい網漁業による時期ごとのアユ漁獲量

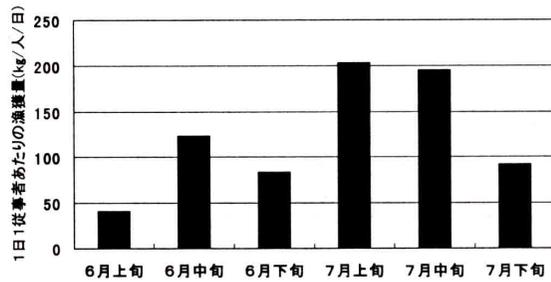


図3 アユ沖すくい網漁業による時期ごとの1日1従事者あたりのアユ漁獲量

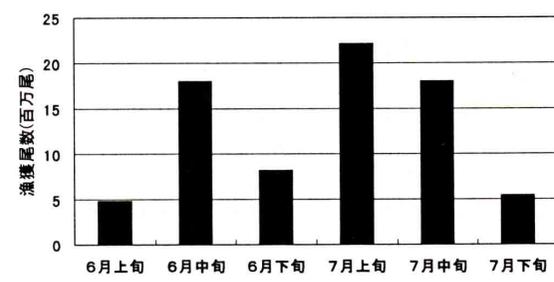


図5 アユ沖すくい網漁業による時期ごとのアユ漁獲尾数

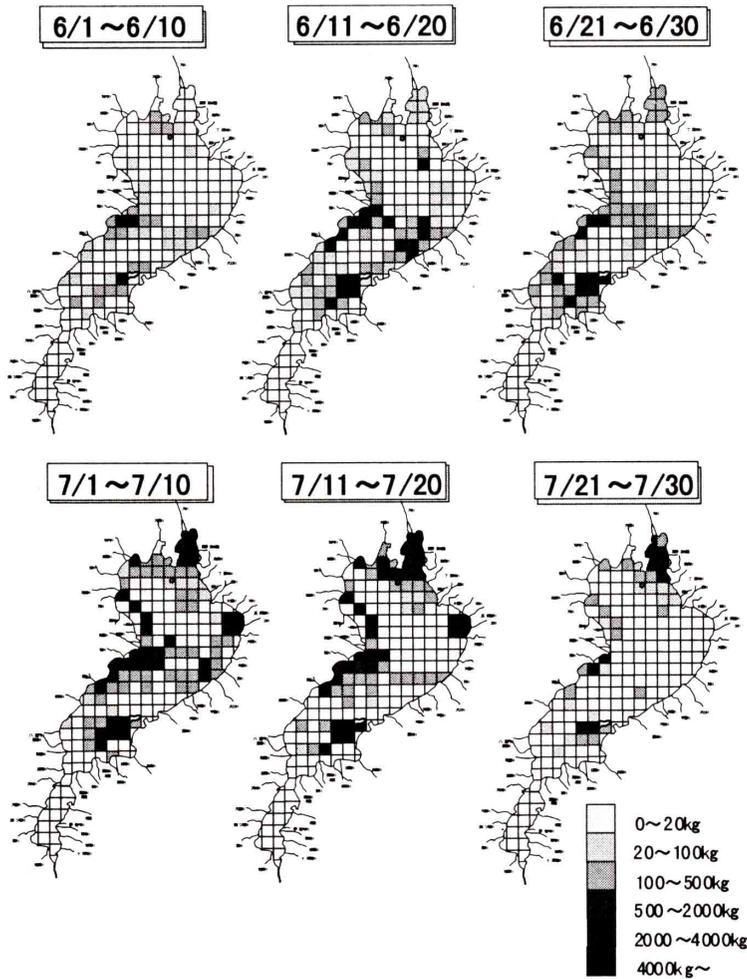


図4 アユ沖すくい網漁業における水域ごとの漁獲量の推移